

jichiro たきかわ

号外

全道女子  
バレー in  
滝川

帯広が大会二連覇！

準優勝は苦小牧



8月2日、3日の両日、滝川市・スポーツセンターで第36回全道自治体職員等女子バレーボール選手権全道優勝大会が開かれ、予選リーグ11チームで勝ち抜いた8チームが決勝トーナメントに進んだ。

強豪チームをおさえ、帯広市労連が全道大会二連覇を達成し、苦小牧市職労が準優勝の栄冠に輝いた。

来年9月に岡山県で開かれる予定の全国優勝大会には、昨年全道優勝した札幌市職連と、今年優勝した帯広市労連、来年の第37回全道優勝大会の優勝チームが出場する。

王者・帯広、主導権握らせず

気温32℃、両チームともにこの日3試合目というハード日程のなか、決勝戦が

行われた。二連覇をめざす帯広市労連と二度目の栄冠をめざす苦小牧市職労。互

いに譲れないたたか

いと戦った。

第一セットは、帯広は序盤から板谷選手のス、イクやブロック、多彩なクイック攻撃により、着実に得点を重ねた。

苦小牧は岩田選手にボールを集め、応

戦するものの、帯広市の高いブロックに阻まれ、そのまま点差を縮められず帯広が第一セットを先取した。

第二セットは、序盤からお互いに一進一退の攻防が繰り返された。

中盤、苦小牧の岩田・中村両選手のス、イクが決まりだし、一時リードしたものの、王者・帯広は正確なサーブプレッシュや板谷選手を中心とした攻撃で試合を立て直し、最後まで主導権を握らせず、帯

広が見事二年連続の全道優勝を果たし、来年の全国大会出場権を獲得した。

苦小牧市職労は初の栄冠に挑むも無念の敗退となった。



# 昨年準優勝、旭川無念の敗退

## 準決勝・準々決勝の試合内容

### 準決勝試合結果

◆旭川市職労（0  
12）帯広市労連  
（118対21②4対  
21）

昨年の決勝戦と同カードのこの試合。昨年の雪辱を果たすべく気合の入った旭川市

職労と昨年の覇者・帯広市労連。

序盤、旭川は館下選手のサーブとスパイクで7点をリード。しかし、帯広も安定したプレーを重ね徐々にペースをつかみ追いつける。中盤には、逆転し終盤も3枚ブ



ロックで、旭川の主砲・館下選手を完全にシャットアウト。帯広が先取した。第二セットに入っても、

徹底した旭川・館下選手マークの戦術を継続。旭川はペースをつかめない試合展開に。帯広のクイック攻撃や時間差攻撃の前に旭川は、なすすべなく無念の敗退となった。

◆苫小牧市職労（210）北見市労連  
（123対21②21対14）

お互いの攻撃陣がスパイクを決め、互角の展開。苫小牧の多様な攻撃に対し、北見は小野選手のスバイクで点数を重ねる。中盤、北見にミスが出てジリジリと離されていく。終盤北見も粘りを見せ、最終には岩田選手がサーブス



エースを決め苫小牧が先取した。第二セット序盤は、お互いのエースが打ち合う展開もあったが、北見のブロックが決まりだし、リードを奪う。

中盤、苫小牧はサーブミスなどなどで点を伸ばしリードを奪い返す。終盤は、北見のミスなどもあり、点差は縮まらない。最後まで苫小牧は攻撃の手を緩めず決勝戦進出を決めた。北見は予選トーナメント

の雪辱を果たすことができず無念の敗北となった。

### 準々決勝試合結果

◆北見市労連（210）滝川市職労

第一セット、北見は滝川のミスにつけこみ、一気に点差を拡げる。滝川もタイムアウトを取り流れを変えようとするが、北見・小野選手を中心とした猛攻は止まらず、北見が先取した。第二セットは、

一進一退の攻防が続く。抜け出したのは滝川。街道選手のサーブミスで追いつき、もつれた試合展開に。しかし、終盤は北見の攻撃陣が攻めたて勝利した。滝川は最後まで粘りのバレーを見せるも力尽きた。

◆旭川市職労（210）別海町職

互いに23回の出場を誇る同士の対戦となったこの試合、第一セット序盤、シーソーゲームの展開となるが、中盤から旭川・館下選手の5連続サーブミスなどで別海を突き放し先取した。第二セット、序盤は別海・対馬選手のサーブミスなどでリードするが、旭川は中盤以降、冷静なバレーを展開。ボールをエースの館下選手に集め逆転し、その勢いのまま勝利した。

◆苫小牧市職労（210）名寄市職

第一セットは、名寄が4点を先取したが、苫小牧の中村選

手のサーブミスとスパイクが決まり、徐々に点差を上げた。名寄も角田選手のスバイクなど応戦するが、苫小牧の多様な攻撃を止められず苫小牧が先取した。第二セットは序盤から一進一退の攻防が続いたが、苫小牧は柴田選手にボールを集めた。最後まで岩田選手の強烈なスパイクが決まり試合を決めた。

◆深川市職労（012）帯広市労連

お互いの気迫が感じる第一セット、序盤ラリーが続くも帯広が高さのバレーで次々と点を決めた。一方、深川は相手チームのミスを誘い追いつけようとするが、帯広・板谷選手のクイックなど、多彩な攻撃などをしかけ、帯広が先取した。第二セット、深川は帯広のサーブに翻弄され、思いどおりのプレーができず果敢に攻めるも、最終安定した攻撃と守備の前に涙を飲んだ。